

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

先日、火災の避難訓練がありました。今回の火事は、理科室からの出火という設定でやりましたが、全員素早く運動場に避難することができました。その様子を見ていますと、慌てることもなく静かに素早く行動で来ていて素晴らしい避難でした。

消防士さんからのお話で、嬉しかったのは、避難の仕方についてはもちろんのこと、そのほかにも、学校に来た時に、何人もの子どもたちが「こんにちは」と声をかけてくれたその姿についてほめてくださっていました。挨拶が自然にできるというのは本当に良いものです。子どもたちには、友達にも先生にもゲストにも、気持ちいい挨拶がいつでもできる人になってほしいと思います

「地域の行事を知る」 八幡神社「縄かけ神事」



1月11日(土)に、「てくてくテーリング」でお世話になっている八幡神社で、毎年行われている「縄かけ神事」の行事を見にいかせていただきました。縄かけ神事とは、千年も前から行われている地域の行事で、その昔、八幡神社の前の川に橋がかかっていた頃には、神様の通り道として縄がかけられていたそうです。今も、八幡神社の前の流れる川の両岸にある大木(八幡神社側…柿木、対岸…勸進杉)に縄をかけ、その年の縄の切れる時期で米の豊作か不作かを占う行事になっています。その縄が早く切れるとその年の米の取れ高が不作となり、長く持つとその年の米の取れ高は豊作になるという言い伝えがあるそうです。ちなみに昨年は縄かけ神事の縄が早くに切れてしまったそうで、昨年末には全国で米がなくなり困ったという事実は記憶にも新しく、迷信とも言えない状況だと思いました。藁はお米の藁でなく、もち米の藁を使うそうで、そのほうが柔らかくしなり、編みやすく編んだ縄も長持ちするそうです。



昨年12月には、5年生の子どもたちが地域の方に教えてもらって「しめ縄づくり」「縄編み」の体験をさせていただきました。縄を編むのに、藁を何度もたたいて柔らかくする作業も大変だろうなと思いました。地域の方は、この「縄かけ神事」に使う藁を皆で手分けして一人当たり三百Kgからの藁をたたいて柔らかくするそうです。私も5年生と一緒に「しめ縄」を作らせていただきましたが、2・3本の少ない縄だと縄もよりやすいですが、それが6本、10本と多くなっていき、縄が少し太くなると、編むのにも力がかかり一人ではどうもうまく編めませんでした。



子どもたちには毎年2学期の終業式に日本の文化についてのお話をさせていただいています。今回は、「しめ縄」についてお話ししました。「しめ縄」をお正月に飾るおうちも少なくなっていて「見たことがない。」と話している子どもたちもたくさんいました。



正確には「しめ縄」と呼ばれているのは、神社にかかっている縄のことで、お正月に飾る縄を「しめ飾り」というそうです。「しめ縄」や「しめ飾り」の縄の方向を見るとすべて縄が編み始めたところから上向きになるよう、編まれていることが分かります。

これは神様に向かって編んでいるので上向きになっているそうです。反対に、荷物を縛ったり普段使いの縄は網目が下向きになるように編まれるそうです。地域の人に教えてもらって、「なるほど。」ということもたくさん知れました。

調べてみると、神社にかかっているしめ縄とお正月の時に飾るしめ飾りでは違う意味があります。神社に飾られているしめ縄は、人間と神様の居場所の結界であり、しめ縄の向こう側は神様がいなさるところ、こちら側が人間のいるところという意味があるそうです。だから一年中、しめ縄がかかっています。お正月に飾られるしめ縄や門松は、その年の年神様をお迎えするための印になります。しめ縄でお迎えした



年神様がいなさる場所が鏡餅になるそうです。「一年、どうか皆が元気に過ごせるよう、お願いします。」の意味があります。鏡餅に使う裏白や鏡餅の上に置く小さなみかんのような橙にも意味があります。日本古来から続く伝統を知ると、ちゃんと意味があり、調べてみるのも面白いなあと思います。そして、縄かけ神事に課せられた占いは、迷信だけではなく科学的根拠にも証明されているようで、日本にある迷信と科学的根拠を調べてみるのも面白そうだなと思いました。ぜひ、子どもたちにも、来年度の自由研究などの課題にして、日本に残る迷信とその科学的根拠を調べてみてほしいと思います。

さて、縄かけ神事の縄編みは、体全体を作って8時から11時ころまで3時間もかけて、みなさんでせっせと編んでおられました。3時間かけて70~80メートルもの長さを編み、それを川の対岸の大木に巻き付けるという大変な作業でした。縄の間に12本の榊と紙垂でできた「永楽」をさします。(うるう年の時には13本差します。)

子どもたちが編んだ縄も大縄に編みこんでもらいました。田植えから始まって稲刈り、そのあとの藁を使ってしめ縄や縄づくり、藁草履を編む…すべてのものを無駄にしない昔の人の暮らし方はすごいなと感じました。地域に残る神事ごとに参加できた事はとてもありがたいことです。(おうちの宗教上、神事に参加できない子には、普通の時に使う縄を編んでもらいました。)

5年生も参加させていただいた縄かけ神事、今年の縄かけはいつまで切れずにかかっているのでしょうか。できるだけ長く持つてほしいものです。(大体6月ごろに切れるそうです。)

天見小学校でしか体験できないことをたくさん経験し、多方面にいろんな知識を蓄えて、卒業して行ってほしいです。

音楽朝会 子どもたちの歌が最高！です

毎学期に2度ほど音楽の先生が音楽朝会を開いてくれます。子どもたちは学年ごとに歌をみんなの前で披露してくれます。今回は「先生、もう一回みんなの前で歌いたい。」と言って挑戦してくれた4年生の歌声を聞かせていただきました。これは他学年の歌声を聞いて「もう一度やりたい。」という気持ちで4年生に芽生えたそうなのですが、各学年切磋琢磨できる関係、みんなをみんながリスペクトできる関係、もっといいものを作り上げていきたい、そういう良き伝統をこうして一年一年培っている姿がとてもいいなあと感じています。全員で歌う歌声をオープンスクールの時にも聞いていただきましたが、今回も朝一番に歌った歌でしたが、伸びる子どもたちの声で体育館を振るわせるほどいい声が出て居ました。自主的に自信をもって、天見小学校の子どもたちの良さがここに 있습니다。最高にさわやかで素敵な子どもたちです。

「お別れ会」での子どもたちの活躍をどうぞ楽しみにしててくださいね。